

尾州ルネッサンスの実現に向けて

理事長 一宮市長 谷 一夫

一宮地場産業ファッションデザインセンター（FDC）は昭和59年2月の開館以来、20年の時を刻むことができました。これも偏に、財団の設立以来、ご尽力・ご支援を賜りました国、愛知県を始め尾張24の市町村、業界団体の皆様、さらには快くセミナーを引き受けていただきました講師陣のお陰であります。衷心より厚くお礼申し上げます。

当FDCも人に喩えるならば、大人の仲間入りとも言うべき二十歳を迎えたわけですから、盛大なお祝いを催すのが本筋かもしれませんが、当地域の地場産業とりわけ繊維産業を取巻く経済環境は大変に厳しいものがあります。お祝いといえども地に足を着けた取組みが必要と考え、記念式典、祝賀パーティーに替えての20周年記念ウィークに、伊勢丹の武藤社長をお迎えしての記念講演会と、日本で初めての糸の展示会『ジャパン・ヤーン・フェア（JY）』を開催することとなりました。必ずやこうした催しが明日のモノづくりに繋がるものと確信をいたしております。

当FDCは、尾張西部地域の繊維を中心とした地場産業を総合的に振興する拠点施設として、昭和50年代中頃の国の施策であった地場産業振興センター建設制度を活用して誕生しました。長年の繊維業界の『ファッションセンターの設立を…』という悲願が達成されたものであり、以来、ファッショントレンド情報の収集・提供、新商品開発、人材育成を三本柱にして産地企業の企画力強化に努めてきました。

今年度、20周年を迎えるに先駆けてFDC事業の大幅な見直しを行いました。これはデフレ経済下の長引く消費の低迷と、中国を始めとするアジア諸国からの安価な製品輸入の増大とに因を發した繊維産業の構造的不況に対処するもので、尾州産地の生き残りを賭けた改革と申し上げても過言ではありません。

新事業の中に掲げましたモノづくりの二つのプロジェクトも、東京でのプロモーション活動も、さらには人材育成のマーケット養成講座も皆様のお力添えにより、ここまでのところ順調に展開しております。また、それぞれの事業内容についても高い評価をいただいております。成果が待たれるところであります。

また、今回の改革では、これまでの繊維産業・ファッション産業の振興に特化したFDCの事業体制も見直し、本来の意味での地場産業振興センターに立ち返って、繊維以外の産業振興、特産品の発掘、地域おこしにその一步を踏出したところであります。

地域の活性化という大きな命題は、一機関の事業改革程度では達成できるものではありませんが、今回の改革テーマであります『尾州ルネッサンス』を実現するため、さらなる努力をお誓い申し上げ、開館20周年記念の挨拶とさせていただきます。



尾州テキスタイルエキシビション